

時代とハートを動かす

SEIKO

コーポレートレポート 2015-2016

セイコーホールディングス株式会社



時代とハートを動かす

SEIKO

ただの数字 じゃない。

TIME IS WHAT I AM.

完走直後、ランナー自身が書き込んだタイムとメッセージを持つ姿を速報広告として展開。



地下鉄の車両を埋め尽くした中張り広告。

マラソンランナーが刻んだタイム。それは単なる記録ではありません。完走した人だけが得られる勲章であり、一人ひとりの熱い思いが詰まった宝物です。応援してくれた人のこと、途中でくじけそうになったこと、完走することで見えた新しい世界。タイムにはさまざまなドラマが凝縮されています。セイコーはオフィシャルタイマーとして大会を支えるとともに、「セイコー市民ランナー応援プロジェクト」を通じて、スポーツに本気で向き合う人を応援しています。



レギュラー番組となった「Sound Inn "S"」。第4回のゲストはシンガー・ソングライターの平原綾香さん。

時や世代を超えて人々に共感を与える力。心に明かりをともし、人々を勇気づける力。音楽にはそんな不思議な力があります。セイコーは、東日本大震災の直後から、音楽を通じた復興支援活動に取り組み、人々とのきずなを深めてきました。そして2014年、時や世代を超えて愛される名曲を現代のアーティストがお届けする一夜限りのステージイベント「Sound Inn "S"」を開催。2015年からは、レギュラー番組としてお届けしています。音楽の力を信じて、わたしたちは人々に豊かな時間を提供していきます。

人々に共感を与え、 勇気づける 音楽の力



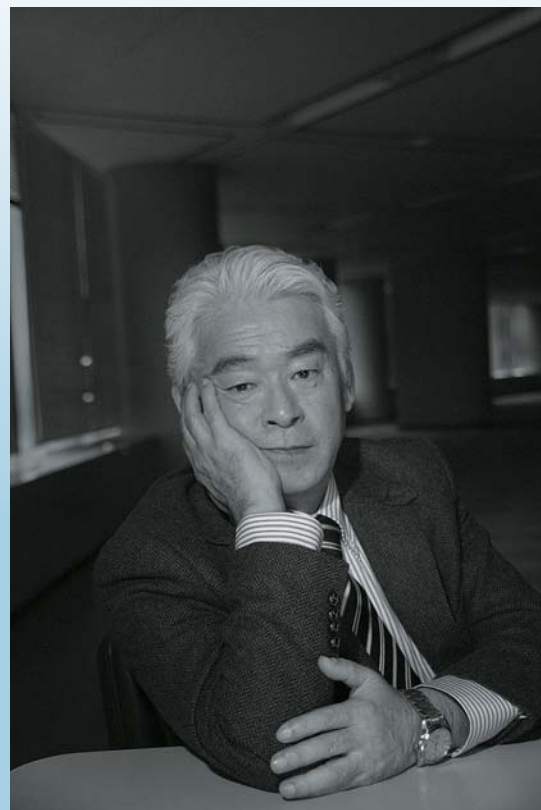
「サウンド・イン "S"」は、実力派のミュージシャンたちが洋楽の魅力や最新の音楽文化を斬新な趣向で伝える音楽番組として、1974年4月から1981年3月まで放送。セイコーはかつて提供していたこの番組をリニューアルし、レギュラー番組（BS-TBS）として復活させた。

グランドセイコーの世界を、 写真家の視点で切り取る。

2015年、グランドセイコーは発売55周年を迎えました。記念プロジェクト「Grand Seiko Through Three Photographers' Eyes」では、腕時計の原点である正確さと見やすさ、そして美しさを追求し続けてきたグランドセイコーの世界を、世界的に評価の高い3人の写真家がそれぞれの視点で切り取りました。グランドセイコーならではの日本の美意識を再発見するこのプロジェクトを通じて、セイコーは、お客さまとの間に、心躍る新たな関係が生まれることを願っています。



パーゼルワールド2015に出展したブースの中央に、インタラクティブフォトブックを設置。大きな本のページをめくるたびに、写真が空中に飛び出す。



- | | | |
|---|---|--|
| A | B | A: 「Portraits (ブランドに関わる人びとの想い)」
photo by 野村 佐紀子 |
| | | B: 「Parts (精緻なものづくり)」
photo by 田原 桂一 |
| | C | C: 「Time (時の持つ物語性)」
photo by 濱田 祐史 |



子どもたちの笑顔があふれる デジタルサイネージ の新たな拡がり

幼稚園や保育園は、子どもたちが社会性を身につけ、発想力や感受性を育む重要な場です。そこでは、子どもたちが登園するのが楽しくなるような仕掛けが求められます。同時に、出席確認や給食準備数、降園時間の管理など、さまざまな事務作業を効率的に行うためのシステムも必要とされています。セイコーは、官公庁や企業で培った実績をもとに、子ども施設向けデジタルサイネージを開発。充実したコンテンツときめ細かいサポートで施設運営を支えています。



次々にあらわれるシャボン玉を割っていくゲームが一番の人気。

お客様の心に響くブランド、SEIKO。

服部金太郎は、「常に時代の一步先を行く」という志をもって創業しました。その志は、弛まぬ技術革新と品質向上への挑戦を支え、創業以来134年を経ても変わることなくグループの一人ひとりに受け継がれています。2014年、セイコーは、お客様の心に響く満足や感動をともに分かち合いたいと願い、「時代とハートを動かすSEIKO」というグループスローガンを掲げました。わたしたちは、市場変化をとらえ技術革新を実現するチャレンジ精神と、ワクワク・ドキドキするような躍動感で次代を切り拓いてまいります。また、若い世代や女性のセイコーファン獲得に向け、スポーツと音楽を中心にしたブランディング活動を展開いたします。世界陸上をはじめとするスポーツ大会の公式計時や、東日本被災地支援コンサートや音楽番組の提供など、躍動するセイコーのブランドイメージを訴求してまいります。わたしたちは、人々の「時」に寄り添い、身近で親しまれる信頼の存在になりたいと願っています。

セイコーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼グループCEO 服部 真二

グループの強みを最大限に生かし、事業収益の最大化に邁進してまいります。

当期(2016年3月期)は、第5次中期経営計画の最終年度(3年目)にあたります。おかげさまで第二年度までは、順調に目標を達成することができました。特に、事業収益の大きな柱であるウオッチ事業では、高価格帯の「グランドセイコー」、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」などが好調に推移し、計画を大きく上回ることができました。また、電子デバイス事業も選択と集中の事業構造改革の成果が出ており、半導体を中心に着実に実績をあげています。グループ第3の柱として期待されるシステムソリューション事業では、グループ内事業の統合によって技術やノウハウを融合し、新たな製品・サービスの創出に努めています。今後も環境変化をしっかりと見据え、グループの強みを最大限に生かし、中期経営計画の基本方針である「事業収益の最大化」に向けて邁進し、目標を達成していききたいと思います。

セイコーホールディングス株式会社
代表取締役社長 中村 吉伸



代表取締役会長兼グループCEO
服部 真二

代表取締役社長
中村 吉伸

Contents

フォトストーリー	1	セイコーホールディングスグループのCSR	23
グループCEO・社長メッセージ	5	● コーポレート・ガバナンス	24
わたしたちの身の周りで活躍するセイコーの製品・サービス	7	● お客様とともに	26
セイコー事業の系譜	8	● お取引先とともに	27
セイコーホールディングスグループの概要	13	● 株主・投資家とともに	28
事業紹介/ウオッチ事業	15	● 社員とともに	29
● 電子デバイス事業	17	● 地域・社会とともに	31
● システムソリューション事業	19	● 環境保全の課題解決に向けて	33
● その他	21		

グループスローガン

時代とハートを動かす
SEIKO

セイコーは、創業以来「常に時代の一步先を行く」という経営姿勢を貫き、革新を続けてきました。この創業からの思いと、「お客様の感性に訴えたい」という新たな思いを込め、わかりやすく表現した企業スローガンを制定しました。時代を牽引してきた技術力と感性で、これからも未来を創造していくというセイコーの熱い意志と躍動感を伝えていきます。

わたしたちの身の周りで活躍する セイコーの製品・サービス

街で

眼鏡レンズ、フレーム

和光時計塔

スマートデバイス用IC、電池、水晶振動子

放送局用標準時計装置

小売

金融機関向けセキュリティ用センサ

車載用IC、精密加工部品

空港で

世界時計

空港タワークロック

GPSソーラーウォッチ

10:08
12:08
17:08
18:08
23:08
22:08

お店で

マルチ電子マネー端末・各種決済サービス

オーダーエントリーシステム

小型サーマルプリンタ

競技場で

スポーツ計時測機器

スポーツウォッチ

カメラ用シャッター

オフィスで

エネルギー監視・制御システム

時刻認証・同期システム

デジタルサイネージ

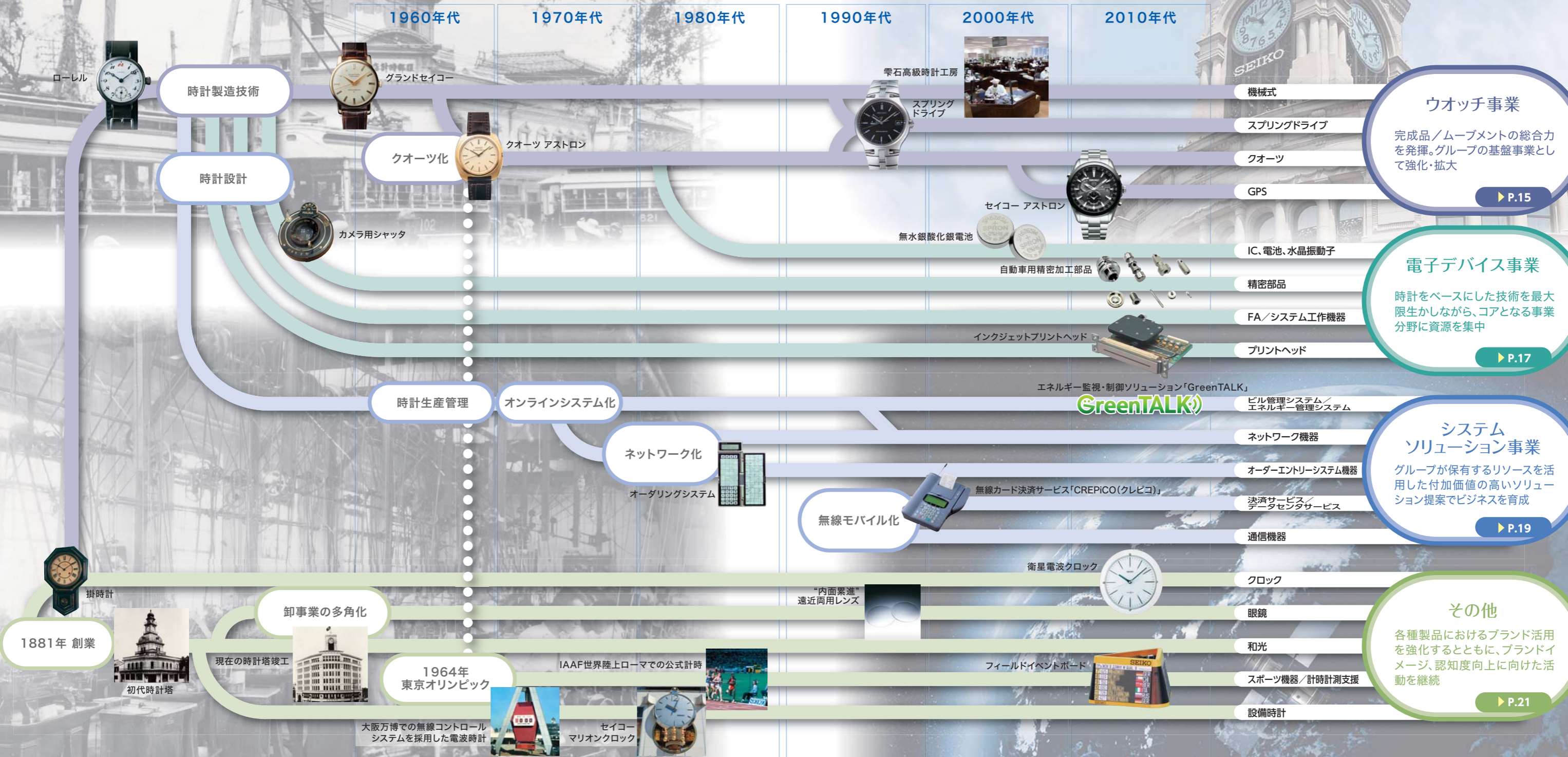
家で

目ざまし時計

衛星電波クロック

セイコー事業の系譜

創業者 服部金太郎が説いた「常に時代の一步先を行く」という精神。それを受け継ぎ、セイコーは、すべての人が正確な時間を手にするための時計を追求するとともに、エレクトロニクスやデジタルの最新技術を駆使することによって、時計以外の分野においても革新的な製品・サービスを世に送り出してきました。130余年にわたって時代とハートを動かし、現在の事業の礎となった、セイコー事業の系譜をご紹介します。



時の技が育んできた、百年の結晶



1913年、国産初の腕時計「ローレル」で第一歩を踏み出して以来、ムーブメントから自社で一貫生産するマニュファクチュール（工場）の強みを生かし、鍛え上げた匠の技や先進技術によって生まれた製品は、いま世界中で高く評価されています。「雫石高級時計工房」で製造・組み立てられる「グランドセイコー」の高級機械式腕時計は、他に類を見ない精度・品質・美しさで賞賛されています。また、1969年に世に送り出した世界初のクォーツ式腕時計に、先進技術を組み合わせ、2012年に発売した世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」は、グローバルマーケットで世界標準として認識されています。



1913年
国産初の腕時計
「ローレル」

1969年
世界初のクォーツ式腕時計
「クォーツアストロン」

1999年
世界初、世界唯一の駆動機構
「スプリングドライブ」

2012年
世界初のGPSソーラーウオッチ
「セイコーアストロン」

ネットワーク社会の到来へ向け、もてる技術を集約

セイコーは、時計の生産管理から独自のオンラインシステムを生み出し、その技術を基盤として80年代より、建物内の稼働状況の「見える化」を実現する総合ビル管理システムや、無線ネットワークを活用した世界初の外食産業用オーダーリングシステムなど、ユニークな製品を次々と製品化していきます。なかでも99年にサービスを開始した日本初の無線によるクレジットカード決済サービス「CREPiCO（クレピコ）」は、タクシーなどで普及が進み、デビットカードや交通系電子マネーなどにも対応した、現在のモバイル決済システムの先駆けとなりました。



1980年
総合ビル管理システム
「BUILTALK」を発売

1985年
世界初の外食産業用オーダーリングシステムを発売

1999年
日本初の無線カード決済サービス「CREPiCO（クレピコ）」を開始

2007年
タクシー向けマルチ電子決済サービスを開始

時計づくりから生まれた、社会を支える電子デバイス



半導体のなかでも消費電力が低く、機器の小型化、高機能化に貢献するCMOS ICは、クォーツウオッチを開発する過程で製品化されました。1960年代末、セイコーはアメリカのベンチャー企業と共同でウオッチ用CMOS ICの開発に成功、世界で初めてCMOS ICを搭載したクォーツウオッチを世に送り出したのです。80年代に入ると、電源用ICやセンサ、メモリなどにラインアップを広げ、現在ではリチウムイオン二次電池保護ICで世界トップクラスのシェア、車載用EEPROMで国内トップシェアを誇るなど、さまざまな分野で活躍しています。



1892年
時計製造工場
精工舎設立

1937年
ウオッチ製造部門として、第二精工舎を設立

1970年
クォーツ化技術による、多角化分野に進出

2003年
125℃の高温でも動作する車載用EEPROMを開発

スポーツ競技を瞬時に、確実に、正確にとらえる

1964年の東京オリンピック以来、セイコーは、IAAF世界陸上をはじめとした数々の大会でオフィシャルタイマーを務めています。2010年、走幅跳と三段跳の正式計測システムとして導入された「VDM（ビデオ距離計測装置）」は、フィールドの外に設置した2台のカメラで跳躍をとらえ、計測員がモニターに表示された画像の着地点にカーソルを合わせるだけで走幅跳と三段跳の計測が可能です。このように速く正確で、機材や係員を観戦の妨げにしないシステムに加え、競技の結果や選手の情報をわかりやすく表示する機材の開発も進めています。



1964年
東京オリンピックで公式計時を務める（以後、5大会で公式計時を担当）

1987年
IAAF世界陸上ローマで公式計時を務める（以後、継続して担当）

2007年
東京マラソンで公式計時を務める（以後、継続して担当）

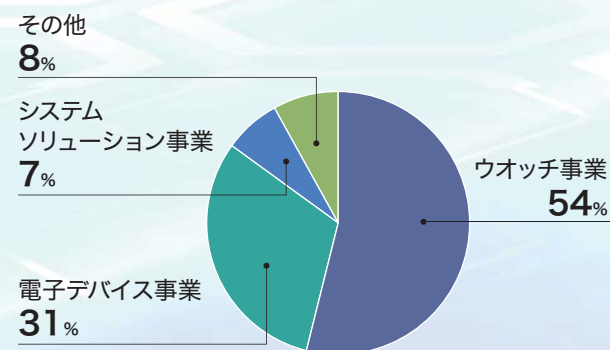
2010年
世界室内陸上ドーハでビデオ距離計測装置（VDM）を導入

セイコーホールディングスグループの概要

世界各地に製造・販売拠点をおき、各国に広がる代理店ネットワークを通じてグローバルに事業を展開しています。

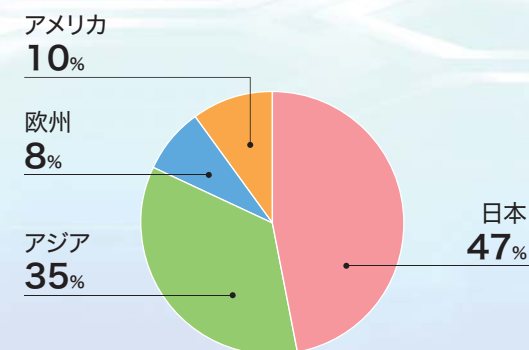


事業別売上高構成比 (2015年3月期)



注) 数値は連結ベースです。

地域別売上高構成比 (2015年3月期)



注) 数値は連結ベースです。

セイコーホールディングス株式会社 企業概要

創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	117名 (2015年3月31日現在) 13,565名 (2015年3月31日現在連結)
売上高	99億円 (2015年3月期) 2,934億円 (2015年3月期連結)
事業の内容	ウォッチ、電子デバイス、システムソリューション、クロック、高級宝飾・服飾・雑貨、設備時計などを扱う事業会社の連結経営管理
本社所在地	〒105-8505 東京都港区虎ノ門2丁目8-10 TEL:03-6739-3111(代表)

ウオッチをはじめ、電子デバイス、システムソリューションの3事業を軸に、さまざまな事業を展開しています。グループ各社が連携しながら、さらなる飛躍を目指します。

ウオッチ事業



主な事業会社

セイコーウオッチ株式会社

セイコーインスツル株式会社

すべての主要部品を自社で製造する世界でも数少ない「マニファクチュール」として、ウオッチ業界におけるリーディングカンパニーを目指します。

腕時計に新たな革命をもたらす世界初のGPSソーラーウオッチ

2012年、世界のタイムゾーンに対応し、簡単な操作で、地球上のさまざまな場所で正確な時を知ることができる、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」を発売しました。かつて、セイコーは世界初のクォーツウオッチ「クォーツ アストロン」で腕時計の世界に革命をもたらしました。これに続く第二の革命と位置づける「セイコー アストロン」は、発売以来、世界中から非常に高い評価を得ており、既存の腕時計の概念を覆す新たな腕時計のスタンダードとなることを目指しています。



世界初GPSソーラーウオッチ
セイコー アストロン
(2012年発売)

匠の技と先進技術で生み出される高級機械式腕時計

2004年、高級機械式腕時計の需要の高まりに応え、岩手県に「雫石高級時計工房」を設立しました。高級機械式腕時計を専門に、部品製造から完成品の組み立てまでを一貫して行う日本有数の工房です。この工房を核として、高精度を支えるミクロン単位でのぜんまい調整、厚み1.98mmの極薄ムーブメントの組み立て、繊細で優美な彫金などの匠の技と、新合金や最先端金属成型技術による部品製造などの先進技術の融合により、「グランドセイコー」と「クレドール」ブランドなどの最高品質の機械式腕時計をつくっています。



グランドセイコー

高級機械式腕時計
ムーブメント

55th
ANNIVERSARY
Grand Seiko

お客様のニーズに応える幅広いブランドマーケティング

お客様のニーズに応えるため、国内外で幅広いブランドマーケティングを行っています。その中心となる商品はいずれもロングセラーです。実用時計の最高峰「グランドセイコー」は今年55周年を迎え、全世界でその地歩を固めています。日本初として誕生してから50年を経て、セイコーダイバーズの人気はますます高く、スポーツウオッチ「プロスペックス」を牽引しています。自分らしく生きる女性のための「ルキア」も20年目を迎えました。さらに、GPSソーラーウオッチ「アストロン」、国産最高級ブランド「クレドール」など個性豊かなプロダクトブランドでさまざまなライフスタイルに合った腕時計を提供しています。

成長するファッション・スポーツウオッチ市場に向けては、2013年に同分野に特化した事業会社を設立し、シェア拡大を図っています。



セイコー ルキア

プロスペックス

SEIKO DIVER'S WATCH
50th
ANNIVERSARY

20th
ANNIVERSARY
LUKIA

真のマニファクチュールとして世界へさらに飛躍する

セイコーは、最先端技術と匠の技を駆使してムーブメントを自社で開発・設計し、基幹部品の製造から、組み立て、調整、品質検査まで、全て自社で一貫して行う世界でも数少ない「マニファクチュール」です。独自の競争力により生み出した革新的な製品で、時計産業を牽引してきました。

こうした長年にわたる実績が評価され、2014年には歴史に残る素晴らしい賞をいただくことができました。日本国内では、「クォーツ アストロン35SQ」が公益財団法人 発明協会の「戦後日本のイノベーション100選」に選定され、さらに、国産腕時計3点が一般社団法人 日本機械学会より「機械遺産」に認定されたのです。海外でも、ジュネーブ時計グランプリにおいて、「グランドセイコー メカニカルハイビート36000GMT限定モデル」が「プティット・エギューユ」部門賞を受賞しました。時計王国スイスの権威ある賞を欧州以外のメーカーが機械式時計の分野で受賞することは、日本の時計メーカーとして初の快挙であり、日本の時計づくりの歴史においてたいへん名誉なことでした。

また、2014年にアメリカ初、2015年にドイツ初、日本初のセイコーブティックをそれぞれ、ニューヨーク、フランクフルト、銀座にオープンしました。今後も全世界でブティック展開を積極的に進めていく予定です。

これからも、マニファクチュールの強みを生かし、セイコーの最高級ブランド「グランドセイコー」、スポーツウオッチの頂点に立つ「セイコー プロスペックス」、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」という強力な商品を中心に、全世界に向けてさらなる飛躍を目指します。

セイコーウオッチ株式会社
代表取締役社長 兼
CEO最高経営責任者

服部 真二



セイコーではたらく



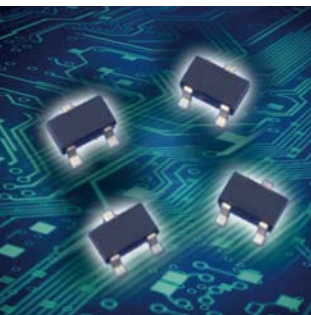
セイコーウオッチ株式会社
開発営業部

三浦 良平

いかにセイコーの良さを多くの方に伝えられるか。営業担当として日々このテーマに取り組んでいます。「時計とは?」「お客様が求めているものは?」といった本質をシンプルに考え、商品バイヤーとの打ち合わせだけでなく、店舗で販売動向などの情報を収集することで、取引先の方々に商品の良さを伝え、さらにその先のお客様に商品の魅力が十分伝わるような提案に結びつけています。提案した内容が狙い通りヒットし、時計に興味のなかったお客様にもアピールができたときは、大きなやりがいを感じます。

社名・部署名は2015年9月現在

電子デバイス事業



主な事業会社

セイコーインスツル株式会社

セイコープレジジョン株式会社

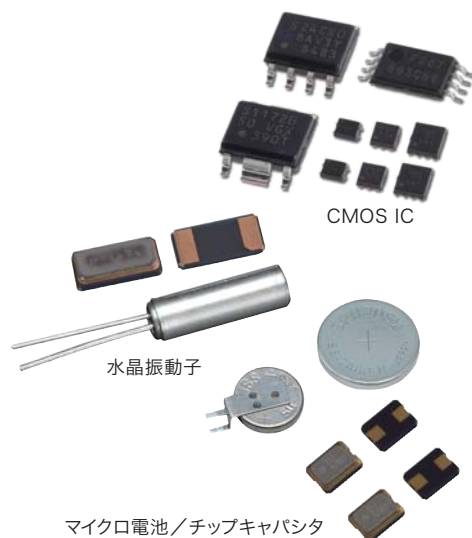
セイコーNPC株式会社

精密加工技術、小型・省電力技術などで、高度化する社会と産業をサポートします。

電子部品

—小型化、低消費電力化、高機能化を実現

クオーツウォッチ開発から生まれた電子部品は、スマートフォンやデジタル家電、自動車、産業用機器などの分野で幅広く活用されています。CMOS ICや水晶振動子は小型、低電圧駆動、低消費電力、高精度で機器の小型化、高機能化、駆動時間の長時間化に貢献。なかでも、CMOS ICは、厳しい環境下での安定動作が求められる車載用にも採用され、その実力が高く評価されています。また、水晶発振器用ICは世界シェアナンバーワンを誇ります。時計用部品の開発・製造の過程で培った電池技術および磁石・高機能金属製品群は、現在では電子機器の小型化・高機能化に貢献しています。

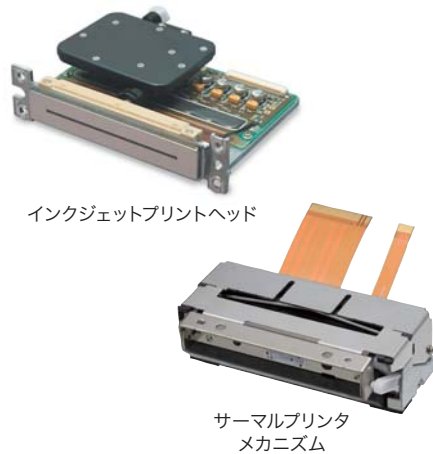


マイクロ電池/チップキャパシタ

プリンタ

—確かな技術力で高まる安心感、極まる生産性

インクジェットプリントヘッドは、インクの微小な液滴を対象物に直接吹き付けて印刷を行う産業用インクジェットプリンタの基幹部品で、広告看板産業をはじめ、建材産業やテキスタイル産業の生産性と、品質の向上に大きく貢献しています。また、感熱紙に熱を加えて印字するサーマルプリンタメカニズムは、小型で静音性が高く、メンテナンスが容易という特長を生かして、POSレジや決済端末、医療・計測機器など、私たちににとって身近なところでも幅広く利用されています。



インクジェットプリントヘッド

サーマルプリンタメカニズム

メカトロ

—社会を支える精密加工技術

時計製造を通じて育まれた精密加工技術を生かし、ハードディスクドライブ用部品や医療用機器、カメラ、モーター、携帯電話など、さまざまな分野で使用される精密切削部品を提供しています。また、ABSブレーキ部品やエンジン・トランスミッション部品などの自動車用部品や、デジタルカメラ用シャッタの製造も手がけています。さらに、金属加工の現場で培われたノウハウを凝縮した工作機械は、自動車部品メーカーなどで多数採用され、高精度のモノづくりにおいて、その実力を発揮しています。



自動車用精密加工部品

デジタルカメラ用シャッタ

内面研削盤

「匠・小・省」をベースに グローバルナンバーワンを目指す

当社は、腕時計製造で培ってきた高い品質・技術レベルにこだわる「匠」の精神、小さくすることで新たな価値を創造する「小」の技術、低消費電力などによって資源の効率的な活用を図る「省」の技術をベースに、事業を展開してきました。近年、スマートフォンやデジタル家電の小型化や多機能化、ウェアラブル化が急速に進んでいます。また、資源・エネルギー問題への対応などもあり、「匠・小・省」に求められるニーズはますます高まっています。

技術革新のスピードが速い電子デバイス事業では、5年先、10年先の市場動向を見極めて、常にお客さまにとって価値ある製品をお届けしていかなければなりません。そのため、(株)日本政策投資銀行との共同出資による半導体新会社の設立や、精密メカトロ製品の強化・拡充など、大きな成長の見込めるコアビジネスへの経営資源の集中を進めています。また、同時に、安定的な収益構造の確立にも努めています。

こうした経営戦略を社員が理解し、十分に能力を発揮してもらうため、お互いに胸襟を開いてフェイス・トゥ・フェイスで話し合う機会を多く設けています。

今後は、社員一人ひとりがチャレンジ精神をもって、「匠・小・省」をベースとした日本初、世界初となる製品の開発に取り組み、SEIKOのブランド力を生かすことでさらなるシェア拡大を図り、各製品でグローバルナンバーワンとなることを目指してまいります。

セイコーインスツル株式会社
代表取締役社長

村上 斉



セイコーインスツル株式会社
半導体営業統括部

大住 敏晃

自動車部品サプライヤーに対する車載用ICの営業を担当しています。自動車業界では4~5年のスパンで新規モデルが発表されるため、この情報をいち早く入手し、設計段階から営業活動を進めていくことが重要です。海外出張の際は、製品提案を行う傍ら現地の情報収集にも努め、新たな商談へつなげるよう努めています。セイコーの歴史、ブランド、技術的対応力、レスポンスの早さなど、半導体売るだけでなく、製品以外の見えない部分も含めてトータルにお客さまをサポートし、長期的なパートナーとして貢献できるようにしたいと考えています。

社名・部署名は2015年9月現在

システムソリューション事業



主な事業会社

セイコーソリューションズ株式会社

ハード、アプリケーション、データセンターの複合サービスで、付加価値の高いソリューションを提供します。

システムインテグレーション

—顧客・市場に密着した対応で、ICTソリューションをトータルに提供

総合ビル管理システムをはじめ、省エネを実現するエネルギー管理システム、外食店舗オペレーションをサポートするレストランオーダーリングシステム、デジタル情報に電子署名とタイムスタンプを付与するデジタルエビデンスソリューションなどを提供。お客さまに密着し、市場のニーズを深掘りしたソリューションを提案します。



決済ソリューション

—お客さま視点で決済ニーズに応え、端末からサービスまで一貫してサポート

お客さまにとって最適な決済ソリューションをトータルに提供しています。非接触IC用端末の開発から、企業間の電子商取引を支える決済パッケージソフトの販売、タクシーや訪問販売における無線カード決済サービス「CREPiCO（クレピコ）」を提供。さらに情報処理センターの運用まで一貫してサポートします。



ネットワークソリューション

—時刻同期やレガシー通信など、つなぐ技術を極めた製品で信頼と安心を生む

ネットワーク上のマシンに標準時刻を高精度に配信する「タイムサーバ」、既存のレガシー通信に対応しシームレスな情報の一元化を図るマルチプロトコルコンバータ「USTシリーズ」、イーサネット上で確実に通信するための各種ネットワーク機器など、信頼性と安定性の高い自社開発製品を提供。情報と情報を快適につなぎ、新たな価値を提案します。



モバイルソリューション

—M2M市場をリードするモバイルソリューションベンダーを目指す

長年培ってきた無線技術と小型化技術を駆使し、M2M市場における先駆的な製品を提供しています。国内初のLTE3バンドに対応したM2M通信モジュールや通信モジュールを組み込んだIoT機器への応用、運用サービスまで拡大。さまざまな業種の課題解決を図る、モバイルソリューションベンダーを目指します。



常に新しいモノをつくり続けていく企業でありたい

当社は、2014年7月にセイコーインスツル(株)のシステムアプリケーション事業を統合し新体制となりました。ウオッチ、電子デバイスに次ぐ第3の柱としてシステムソリューション事業の拡大を図ります。

この統合により、さまざまな人や機器をインターネットに接続するIoT(Internet of Things)に関する技術のほぼすべてをもつことになりました。このことを強みとして、さらなる事業の成長を目指します。

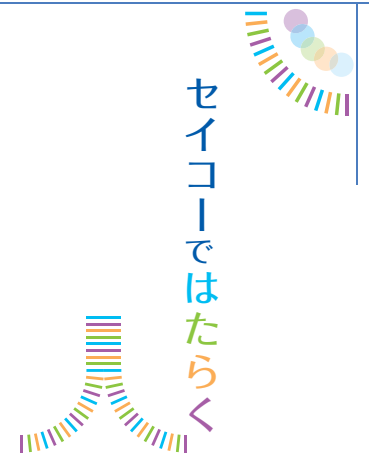
これらの強みを生かすためには技術のシナジーが欠かせません。当社の4つの基盤事業を横断する新しい仕組みを構築し連携を深めることで、ダイナミックに、かつスピード感をもって新しいソリューションを創出し、お客さまへのサービスの深化と拡大を実現します。

また、海外での事業展開を視野に入れ、まずはASEANにおける基盤づくりを目的に、2015年1月、タイに販売会社を設立し営業を開始しました。

当社の成長を支えるのは、お客さまのニーズを敏感に感じ取る感受性と、自分たちがもっているシーズを組み合わせる新しいビジネスをつくり出す創造力、そして社員一人ひとりの行動力です。こうした能力を併せもつ人材を育成し、サポートしていくことで、お客さまの考えをより深く理解し、カタチにしていきながら、常に一歩先のソリューションを提供し続けていく、そんな企業でありたいと考えています。

セイコーソリューションズ株式会社
代表取締役社長

山本 隆章



セイコーソリューションズ株式会社
決済ソリューション統括部

伊地知 由貴

カード決済に関するパッケージ製品の開発を行っています。買い物でクレジットカードを利用する際に、カード情報や購入金額などの情報をお店から決済センターに伝送するための製品です。担当した製品によって買い物がスムーズに行われ、利用者や店舗の利便性の向上に貢献できることが開発の励みになっています。技術的な知識だけでなく、クレジット決済の業界知識やセキュリティ関連の専門知識についても勉強を重ね、3年後には画期的な機能を持った新しい製品を設計できるだけの力をつけたいと考えています。

社名・部署名は2015年9月現在

その他



主な事業会社

セイコークロック株式会社

株式会社 和光

セイコータイムシステム株式会社

セイコーオプティカルプロダクツ株式会社

クロック、小売、システムクロック／スポーツ機器、眼鏡など、幅広い事業領域で社会に貢献しています。

■ クロック

掛時計の製造開始より120年、企画・製造からアフターサービスまでを行うクロックトータルカンパニーとして、高い品質とモノづくりの技、先進技術の融合により、幅広い商品ラインアップを誇ります。

衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」

2014年、GPS衛星からの時刻情報を受信し自動的に時刻を修正する、世界初の家庭用衛星電波クロックを発売しました。従来の電波時計に比べ、屋内でも受信可能な範囲が大幅に広がり、受信スピードも短縮されました。GPS衛星の信号を受信できるのであれば、国や地域にかかわらず正確な時刻表示を実現する、まさに進化した電波時計といえます。

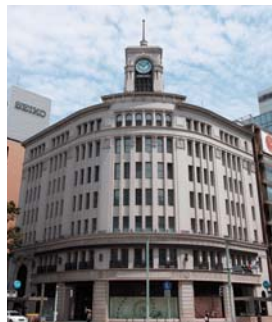


世界初の家庭用衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」

■ 小売

おもてなしの心でお客様に接する銀座の高級専門店

銀座を代表する高級専門店・和光では、時計をはじめ、宝飾品、紳士・婦人用品、室内装飾品、食品など、お客様の声を取り入れて独自に開発した、あるいは国内外から厳しい目で選び抜いた、高い品質を誇る商品を幅広く取り揃え、質の高いサービスを提供しています。また、銀座の街を見守る和光本館は2015年に竣工83年を迎え、この間、銀座のシンボルとして多くの人々に愛されてきました。これからも、長い歴史と伝統のなかで培ってきた上質へのこだわりとおもてなしの精神で、お客さまとの信頼関係を大切にしていきます。



和光本館

■ システムクロック／スポーツ機器

公共の空間やスポーツシーンで活躍

学校・病院などの公共施設で使われる設備時計、街を彩るからくり時計、放送局用時計などの専門的な時計から、10,000分の1秒まで計測可能なスポーツ計時計測機器、競技データ処理システムおよび大型表示盤や野球場スコアボードなど、システムクロックやスポーツ機器の企画・開発から製造・販売、アフターサービスにいたるまで総合的に行っています。また、国際大会などで培われた豊富な経験と、高度な技術力をベースに、各種スポーツ大会の計時支援活動も積極的に展開しています。



情報通信研究機構のLED表示システム 2015年7月1日「うるう秒」を表示

■ 眼鏡

90年以上の歴史を誇る眼鏡事業。レンズとフレーム双方を扱う世界に数少ない会社として、最高、最適なパフォーマンスを実現するメガネ「EYEWEAR THAT PERFORMS」を提供しています。

幅広いラインアップが揃うセイコーの高付加価値商品

1997年に世界初の遠近両用テ일러メイドレンズを発売して以来、セイコーは一人ひとりの「お客様仕様」を目指したレンズ開発を推進。フレームは常に、品質、デザイン、掛け心地を追求。掛けた方のスタイリッシュな表情を演出する豊富なラインアップが揃っています。



「EYEWEAR THAT PERFORMS」広告

「ときめきと感動をお客さまへ」 全社員が考え、実践する和光に

グループの発祥の地である銀座に立つ和光本館は、ウォッチ、クロック、眼鏡などのセイコー製品を数多く取り扱っています。売上や利益による貢献もさることながら、和光は、世界を代表するランドマークからSEIKOブランドを発信する役割を担っています。

現在のお客さまはシニアの方々が中心ですが、将来を見据え、若い世代のお客さまにもアピールするよう商品を入れ替え、情報発信力を高めています。すでにメンズ向け商品では成果が表れています。

さらに次の戦略として、カタログやネットでの販売、外商に力を入れていきたいと考えています。「ときめきと感動をお客さまへ」をキャッチフレーズに、和光ならではの高品質の商品を一人でも多くのお客さまにお届けできるように、真心を込めたサービスの強化を図ってまいります。

そのためには、和光で働く全員がお客さま満足について考え、実践していかなければなりません。また、仕事の生産性を高めていくことも必要です。2013年に、若手社員たちの社内プロジェクトにより、社員自らが社員のあるべき姿をまとめた「和光人の心得」を作成しました。社員全員が毎日携帯して業務を振り返ることで、日々スキルを磨いています。こうした取り組みの積み重ねとともに、目的・目標の共有、公正な評価によってマネジメントが社員から信頼される組織づくりにも努めていきたいと考えています。

株式会社 和光
代表取締役社長

安達 辰彦



セイコーではたらく



セイコークロック株式会社
企画部企画グループ

神谷 佳孝

周りの言うことを鵜呑みにせず、自分が自信をもてるものにこだわって企画するスタイルなので、普段から嗅覚を磨くよう心がけています。商談会でお客さまの目線や動きを観察したり、休日には、子どもの好きなことを一緒にやることで、自分の知らなかった新しい世界が広がっていきます。人をワクワクさせるのが好きで、私の考えた仕掛けをお客さまが楽しんでいるのを見るとやりがいを感じます。成熟市場と言われるクロックですが、たとえば壁掛けの発想を変えるなど、生活に密着した一歩先の新たな提案で、日々クロックを進化させたいと考えています。

社名・部署名は2015年9月現在

セイコーホールディングスグループのCSR

セイコーホールディングスグループのCSRは、基本理念である「社会に信頼される会社であること」の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することと考えています。
わたしたちは、この実現に向けて、以下の取り組みを推進していきます。

- 1 革新的な技術、質の高い商品・サービスの提供を通じて、より良い社会づくりに貢献します。
- 2 ステークホルダーの期待・要請を踏まえて、事業活動が社会に与える影響に責任をもって対処します。
- 3 法令および国際的な規範を遵守し、ステークホルダーとの対話を基盤に透明性・公正性の高い企業経営を推進します。

- P.24** コーポレート・ガバナンス (Corporate Governance)
- P.33** 環境保全の課題解決に向けて (Towards solving environmental issues)
- P.26** お客さまとともに (Together with customers)
- P.31** 地域・社会とともに (Together with the community and society)
- P.27** お取引先とともに (Together with business partners)
- P.28** 株主・投資家とともに (Together with shareholders and investors)
- P.29** 社員とともに (Together with employees)

CSR編集方針

● 読みやすくするために文章を簡潔にし、ビジュアルも大きくして内容を把握しやすくしました。

【報告対象範囲と期間】

本レポートは、セイコーホールディングス(株)および各事業会社[※]における2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の活動を中心にご報告しています。
[※]セイコーウオッチ(株)、セイコーインスツル(株)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコーソリューションズ(株)、セイコークロック(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)の各社です。

【参照ガイドライン】

GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン2013」、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、
「環境会計ガイドライン2005年版」、日本経団連「企業行動憲章」

【ウェブサイトとの連携】

本レポートではセイコーホールディングス(株)および各事業会社のCSR活動のエッセンスをお伝えし、ウェブサイトにも同様の情報を掲載しています。内容は随時改訂されますので、最新情報は下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.seiko.co.jp/csr/>



コーポレート・ガバナンス

グループの基本理念である「社会に信頼される会社であること」を実現するために、法令の遵守、経営の透明性・公正性の確保、社会倫理の尊重を重要な経営課題と位置づけ、その実現に向けたコーポレート・ガバナンスの強化推進に取り組んでいます。

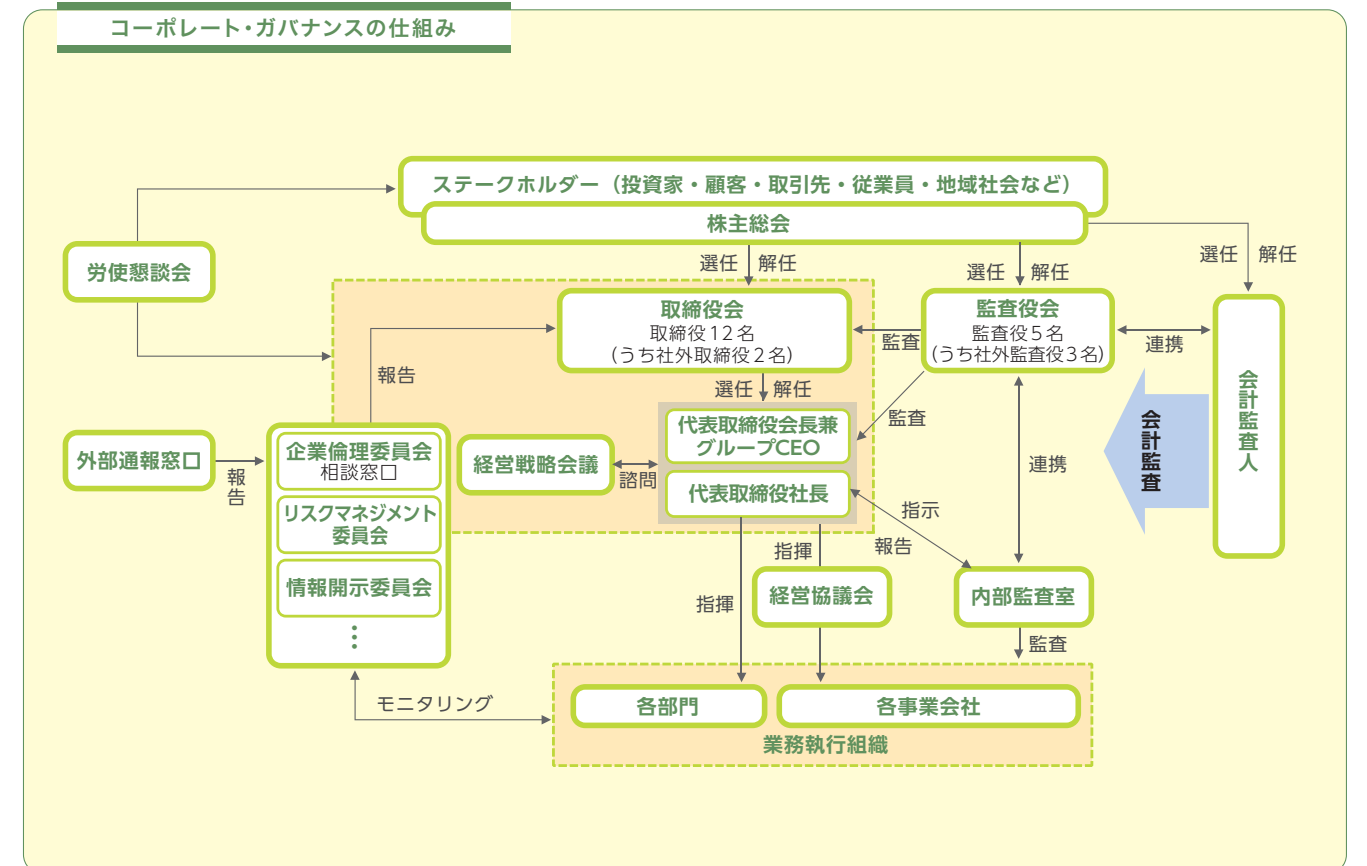
迅速で適切な経営を支える コーポレート・ガバナンス体制

セイコーホールディングス(株)は、持株会社として事業ごとの経営責任の明確化を図るとともに、迅速な経営判断と機動的な施策の実行を通して、経営環境の変化に対応できる組織体制をとっています。取締役会において常に連結事業会社の状況を把握し、必要に応じて各社より説明を受け、適切な意思決定を行います。また、代表取締役の諮問機関である経営戦略会議においては、業務執行の基本事項を審議し、経営活動を適正迅速に推進することを目指しています。一方、経営協議会は、当社役員と各事業会社の社長で構成され、各事業会社の業務執行状況の把握に努めています。

リスクを予見予防し、 被害を最小化

セイコーホールディングスグループは、変化するリスクに対応するために、リスクマネジメント委員会を設置し、リスク管理体制の改善を推進しています。委員会では、経営に甚大な損失をもたらす恐れのある重要リスクへの対応などについて審議するとともに、さまざまなリスクを識別・共有して活動を進めています。

2015年にはリスク管理システムを導入しました。今後は、起こりうるリスクの可能性とその対応策をガイドラインとしてまとめ、情報の質の均一化や共有、活用促進に向けた教育を実施していく予定です。



お客さまとともに

お客さまの多様なニーズの一つひとつきめ細かく対応することをカスタマーサービスの基本として、お問い合わせやご相談、ご意見、修理依頼など、お客さまの声やご要望をしっかりと把握し、適切・迅速・公平な対応を心がけ、常にお客さまとの接点の深化を図っています。



企業倫理・コンプライアンス体制の維持・推進に向けた取り組み

セイコーホールディングス(株)は、企業倫理・コンプライアンス(法令順守)体制の維持・推進を重要な経営課題の一つと捉え、役員および社員を対象に企業倫理研修を実施しています。

事業会社を含めた役員に対しては、法的なリスクを回避して適正な経営を行うために、自らの権限・義務に関する知識を記した「法令ハンドブック」を配布しています。また、「インサイダー取引規制」など、コンプライアンスに関する研修を行っています。

従業員に対しては、「反社会的勢力排除」「個人情報保護」など、日常の業務に関連する事柄についての研修を年2回実施しています。



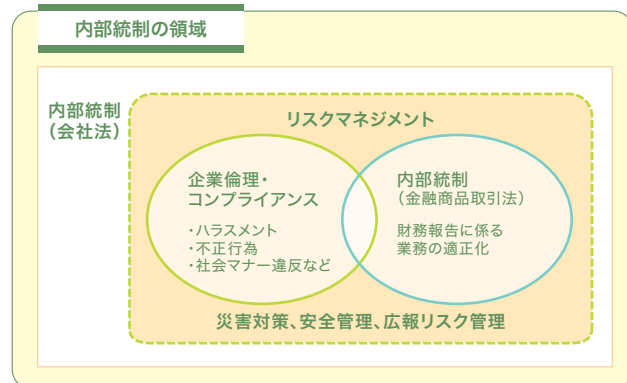
法令ハンドブック

また、コンプライアンス体制の維持・推進状況を定期的を確認するため、内部監査室による監査等を実施しています。

会社法内部統制システム監査では、当社を含めた会社法上の大会社8社を対象に、会社法および関連法令に基づき、コンプライアンスに係る基本

方針、行動規準の制定・周知や、リスクマネジメント体制の整備(構築・運用)状況を確認しています。

財務報告に係る内部統制評価(J-SOX)では、グループ全体の内部統制の基盤として、適正な財務諸表の作成に向けた、財務報告プロセス、業務プロセスの確認を行っています。



その他、個人情報保護監査、情報セキュリティ監査、インサイダー取引防止管理に関する監査などを展開し、幅広い観点から内部統制に努めています。

BCP(事業継続計画)を視野に入れた取り組み

セイコーホールディングス(株)は、BCP(事業継続計画)の観点からIT利用環境の整備と大規模災害発生への対応に努めています。

IT利用環境の整備については、防災性とセキュリティ性に優れた外部のデータセンターにサーバを移管することで耐障害性を高めるとともに、仮想化によってサーバの効率的な稼働と冗長性の向上を図っています。さらに今後は、データセンターの一極集中に伴うリスクを分散するため、ミラーサイトを設けたり、災害でオフィスに入れない事態に備え、社外からでも安全にシステムを利用できる環境の構築を検討していきます。

また、大規模災害の発生を想定し、「危機管理マニュアル」で定めた災害対策本部各班の取り組みをシミュレーションする訓練を行うなど、お客さまと社員の安全確保に備えています。



セイコーホールディングス(株) 災害対策本部訓練

世界中のマーケットをカバーするサービスネットワーク

セイコーウオッチ(株)は、93か国・地域、145か所においてサービス網を展開しています。本社のアフターサービス部門では、各地のサービスの質をモニターし改善を図ることで、世界中どこでも同じ高水準のサービスを目指しています。この目標達成に向けた活動の一つとして、2010年に「セイコー認定時計師計画」を開始しました。これは、各地から優秀な修理技能者を集め、試験に合格した人を「セイコー認定時計師」として認める制度であり、認定時計師はサービスセンターに戻った後、同僚を指導することでセンター全体のレベルアップにつなげていきます。すでにアジア、欧州、アメリカで展開し、認定時計師の数は着実に増えています。

また、サービスセンターの設備について新たに高いレベルの基準を設定し、世界中で空气中に塵がほとんどない理想的な空間でのオーバーホールを目指しています。そして高級腕時計のロングセラーである「グランドセイコー」では、お客さまの深い愛着が中身のムーブメントにも及ぶことから、良品のムーブメントに取り替えるのではなく、持ち込まれたムーブメントをオーバーホールしています。こうしたニーズに応えていくためにも、素早いオーバーホール、修理、メンテナンスが行えるサービスセンターの拡充を図っていきます。



「セイコー認定時計師」試験風景 (Seiko Nederland B.V./オランダ)

メーカー修理が手軽に利用できる「オンライン修理受付」

セイコーサービスセンター(株)は、2011年からセイコーウオッチ(株)のウェブサイトを通じた「オンライン修理受付」を開始しました。お客さまがパソコンに必要事項を入力していただくと、すぐに修理料金の見積りやおおよその納期が表示され、修理依頼ができる仕組みであり、宅配会社が指定の時間・場所で集荷するので、多忙なお客さまや近くに販売店のないお客さまにも、純正部品を使ったメーカー修理を手軽にご利用いただくことができます。



URL <http://www.seiko-ssc.co.jp/service/online/>

セイコーサービスセンター(株)

会社設立50周年 ウオッチ修理累計2,000万個達成

セイコーのウオッチ修理専門会社として1964年に設立されたセイコーサービスセンター(株)は、昨年設立50周年を迎え、ウオッチ修理累計2,000万個を達成しました。メーカーならではの最新設備と検査体制、卓越した技能をもつ修理技術者を有する同社は、お客さまの大切な時計の性能と価値の維持に努め、信頼にお応えしています。



お取引先とともに

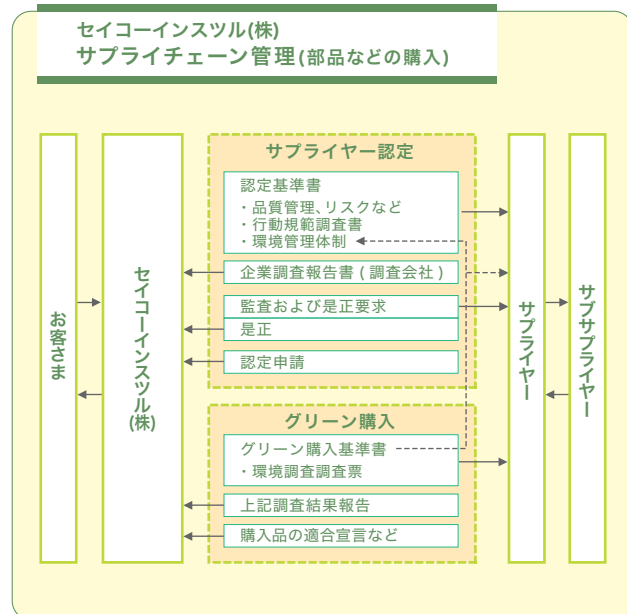
セイコーホールディングスグループの事業活動は、お取引先の皆さまとの協働で成り立っています。より良い協働関係を保つために、関係法令を遵守するとともに、相互信頼を築くように努めています。

適正な購買取引を行うために

適正な購買取引のためには相互理解と法令遵守が不可欠です。セイコーホールディングス(株)は、企業倫理行動指針において独占禁止法や不正競争防止法をはじめとする各種法令を遵守し、適正な購買取引を行うことを事業の基本方針として定め、それぞれの事業会社においても徹底しています。

サプライヤー認定制度

セイコーインスツル(株)は、2004年度よりサプライヤー各社の行動規範管理体制、経営状態、環境管理体制などについて調査を行い、一定の基準を満たしたサプライヤーを認定する制度を導入しています。現在、国内では約1,000社を認定し、海外拠点が直接取引している直接材料サプライヤーの9割以上についても認定審査を完了しています。2015年度も引き続き認定率100%を目指していきます。



流通販売店などとの協働

セイコーの商品が並ぶ店頭で、お客さまに商品の魅力・特性を正しくお伝えしていくために、流通販売店などとの間で商品についての正しい認識を共有する取り組みを進めています。各事業会社では、提案会、展示会、技術講習会、店頭訪問などを行い、流通販売店との協働関係の構築に努めています。店舗の業態・規模などに応じた宣伝・販売促進計画、店頭ディスプレイを提案するなど、販売に結びつく店頭づくりをサポートしています。

セイコーウオッチ(株)は、流通販売店との重要なコミュニケーションの場として、年2回提案会を開催し、新商品の特長だけでなく、開発の背景、対象としている消費者像、ブランド・ビジョンについてもご理解いただくように努めています。また、海外の現地法人や販売代理店のアフターサービスを支援するために、英訳版修理マニュアルを配布し、各地で講習会を定期的に開催しています。

セイコークロック(株)は、お客さまによりクロックを知っていただき、ご覧いただける企画展として、リズム時計工業(株)と共同で2014年6月・7月に「Japan Clock Fair(ジャパクロック フェア)」を国内デパート2か所で開催しました。世界に誇る両社の先進的な技術、優れた品質で造り出した多彩なラインアップから厳選したモデルを展示し、普段ご覧いただくことが少ないさまざまなクロックを“見て、聞いて、触れて”五感で楽しんでいただくとともに、クロックの歴史やトピックスなどあらゆる角度でクロックの魅力をご紹介します。今後も、本企画にご賛同いただける全国のデパートで継続的に開催していきたいと考えています。



Japan Clock Fair(ジャパクロック フェア)

株主・投資家とともに

株主や投資家の皆さまに対し、適時適切な情報開示を行い、誠実で透明性の高いコミュニケーションに努めています。

情報開示の基本方針と方法

セイコーホールディングス(株)は、金融商品取引法および東京証券取引所が定める規則に則った情報の開示を実施するとともに、当社の判断により株主や投資家の皆さまにとって重要かつ有効と思われる情報についてもタイムリーに開示しています。

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示については、同取引所の適時開示情報伝達システム(TDnet)に登録し公開するとともに、当社ウェブサイト上に速やかに掲載しています。

コミュニケーションを積極的に展開

グループの経営状況や事業戦略をご理解いただくために、セイコーホールディングス(株)社長や担当役員出席のもと、証券アナリスト・機関投資家向けの決算説明会など、各種説明会を定期的に開催しています。また、スモールミーティングや個別取材、工場見学会への対応も行っています。個人投資家の皆さまに対しては、ウェブサイトでもわかりやすい情報掲載に努めるなど、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを積極的に図っています。

株主総会・年次報告書

毎年6月下旬に開催する定時株主総会では、図表や映像を多く使用し、株主の皆さまにとってわかりやすい説明を心がけています。2015年は、「定時株主総会招集ご通知」をカラー化し、写真やグラフを使用した見やすいレイアウトに刷新しました。また、株主の皆さまの議決権行使のための検討期間を長くするため、招集通知の発送とウェブサイトへの掲載を例年よりも早く行いました。さらに、海外の株主さま向けに、招集通知の一部を英訳し、日本語版と同時にウェブサイトへ掲載しました。

年次報告書についても、文字を大きくし、ビジュアルを増



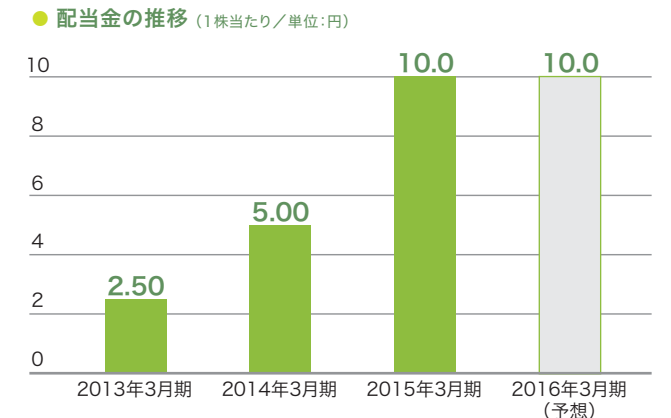
URL <http://www.seiko.co.jp/ir/individual/>

やし、1年間のニュースを時系列で表した「当期のふりかえり」や、経営トップが経営課題に関する質問に答える「トップインタビュー」を掲載するなど、わかりやすさに努めました。また、株主の皆さまより要望の多かった過去5年間の連結財務データの推移を表にし、掲載しました。

利益配分について

セイコーホールディングス(株)は、株主の皆さまに対する利益配分について、基本政策として安定配当の継続を重視しています。

2015年3月期は、同期の連結業績を勘案し、経営基盤強化のため内部留保の充実に配慮しつつ、安定配当実施の方針に従い、1株当たり10.0円の配当とさせていただきます。



社員とともに

セイコーホールディングスグループは、社員一人ひとりが安心して働ける職場環境を実現することで、社会的な責任を果たすと同時に、企業業績の永続的な向上を目指します。

社員の能力開発を支援

セイコーホールディングスグループは、男女共同参画の考えに沿って雇用機会均等に努め、社員の能力開発を支援する人材育成を推進しています。

女性活躍推進

第5次中期経営計画における施策のひとつである女性の活躍をより推進するため、女性管理職比率を2013年4月の5%台前半から2016年3月までに10%とする数値目標を掲げています。その目標達成に向け、2014年度からグループ横断的な組織として、各社の経営層から構成される「女性活躍推進委員会」と、各社の管理職と女性社員から構成される「女性活躍プロジェクト」が連動しながら、以下のようなさまざまな施策の取り組み、検討をスタートしています。これによって、女性活躍推進に対する管理職の意識改革、女性社員のキャリアアップ支援を行っていきます。

女性活躍推進 2014年度の主な活動

- ①女性活躍推進委員会(隔月)、女性活躍プロジェクト(年10回)の開催
- ②各種講演会、セミナーの実施
- ③女性活躍推進サイトの開設
- ④日本経済団体連合会「女性の役員・管理職登用に関する自主行動計画」の提出

女性活躍推進トピックス

時計修理の現場で活躍する女性技能者

セイコーホールディングスグループにおける女性の活躍は、時計修理の現場にも広がっています。セイコーサービスセンター(株)では、2010年頃から女性の修理技術者が増加し、2015年6月現在、修理部門における女性比率は36%となっています。2012年には、「第50回技能五輪全国大会」の時計修理部門において、同社の女性社員が敢闘賞に輝き、現在では後進の指導役としても活躍しています。



技能五輪で敢闘賞を獲得した高谷 愛美 (セイコーサービスセンター(株))

女性活躍推進 2015年度の主な計画

- ①管理職および女性社員の意識改革、キャリア育成
- ②働き方の多様化の検討
- ③男性社員の育児休業取得の促進
- ④働きやすい環境整備



女性社員向けキャリアアップセミナー

グローバル人材育成

セイコーホールディングスグループは、グループ共通の重点市場と位置づけているアジア地域で活躍するグローバル人材の育成を進めています。

国内でグローバルビジネスの基礎知識を学んだ後、3か月の海外現地派遣を通じて実践的なスキルを習得。帰国後は海外研修で得た知識や経験、情報などを生かし、派遣国のマーケットを攻略するための事業計画の立案、経営トップへのプレゼンテーションが行われます。

次の世代を担う子どもたちのために

育児休業・育児短時間勤務制度

セイコーホールディングスグループは、「育児介護休業法」に基づき、育児休業・育児短時間勤務制度を取得する社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員が働きやすい環境を整備することによって、安心して社員が各々の能力を発揮できる環境づくりに努めています。

育児休業・育児短時間勤務制度取得状況(国内主要連結会社)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
育児休業	70名	77名	66名	75名
育児短時間勤務	107名	101名	99名	100名

次世代育成支援行動計画に基づく人事制度

セイコーホールディングス(株)は、改正「次世代育成支援対策推進法」に基づき、次の世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境をつくるための行動計画を策定。現在、この行動計画を2020年までに達成することを目標として取り組みを進めています。

次世代育成支援行動計画(2020年までに)

- 目標1 計画期間終了前直近1年間の平均週労働時間が60時間以上の労働者の割合を5%以下とする。
- 目標2 計画期間終了前直近1年間の年次有給休暇の1人当たり平均年間取得日数を2015年度比の10%増とする。
- 目標3 女性社員の活躍推進のため、女性社員を対象としたキャリアアップ研修と、女性社員の育成のための管理職研修を継続実施する。

安心して働くことのできる職場環境づくり

安全衛生・健康管理

セイコーホールディングス(株)は、労働基準法、労働安全衛生法およびその他の安全衛生に関する法令の趣旨に基づき安全衛生管理規則を制定しています。総括安全衛生管理者、衛生管理者、産業医を選任し、定期健康診断の実施、衛生委員会の設置などにより、従業員の安全と健康の確保に努めています。2008年度からは、労働安全衛生法に基づく「定期健康診断」と、健康保険組合に新たに義務づけられた「特定健康診査・特定保健指導」に基づき、定期健康診断の検査項目の充実を図り、法定健診より幅

広い範囲で実施しています。

メンタルヘルス対策の推進

2000年8月に厚生労働省が発表した「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」にしたがい、2005年度よりメンタルヘルス対策への積極的な取り組みを開始し、グループ社員の心の健康の保持増進に努めています。

メンタルヘルス対策のための主な施策

- ①グループ管理職向け研修の実施
- ②グループ社員向けストレスチェックテストの実施
- ③社外24時間健康相談窓口「セイコー健康相談室24」の設置

障がい者雇用

セイコーホールディングスグループは、障がい者雇用を積極的に進めています。特例子会社制度によるグループ適用の認定を受けているセイコーホールディングス(株)および事業会社計8社の2015年6月1日時点の障がい者雇用率は2.45%と法定雇用率を上回る障がい者の方々を雇用しています。



障がい者雇用特例子会社(株)あおぼウオッチャーサービス

シニア人材の活性化

2013年4月から改正高年齢者雇用安定法が施行され、原則として希望者全員が65歳まで継続雇用されることとなりました。セイコーホールディングスグループでは、これまで培った知識、人脈、専門スキルといった強みを生かした「頼られるベテラン社員」として、シニア人材のマインドチェンジを図ることで、シニア人材の活性化に取り組んでいます。若手育成など新たな役割の認識やモチベーションの向上などを目的に、年代別のキャリアデザインセミナーを開催しています。

地域・社会とともに

セイコーホールディングスグループでは、地域・社会の繁栄、地域・社会との共存を目的に、さまざまな活動に取り組んでいます。

海外でのスポーツ協賛活動

セイコーホールディングスグループ各社の海外現地法人は、スポーツを通じたチャリティーやボランティア活動に参加することで、地域活性化への貢献に努めています。

走り続ける人を称え、寄付を募るスポーツイベント

シンガポールで開催された「Run For Cover 2014」は、ランニングマシンでどれだけ長く走り続けることができるかを競うというユニークなスポーツイベントで、30km走行するごとに、白内障患者や高齢貧困層の人たちを支援する寄付金が支払われます。この大会で、セイコーは、オフィシャルタイマーを務め、競技を大いに盛り上げました。



Run For Cover 2014

知的障がい者の自立や社会参加を支援

スペシャルオリンピックスとは、知的障がいのある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。1968年に第一回夏季世界大会が開催され、現在は、夏季と冬季の世界大会がそれぞれ4年ごとに開催されています。2015年、世界165か国から6,500人のアスリートと3,000人のコーチが参加したスペシャルオリンピッ

クス ロサンゼルス夏季大会に、セイコーはシルバーチャンピオンスポンサーとして協賛しました。



2015年スペシャルオリンピックス ロサンゼルス夏季大会 オープニングセレモニー

国内でのスポーツ協賛活動

セイコーホールディングスグループ各社は、それぞれの事業の特性を生かしながら、スポーツを通じた子どもや若者の育成に貢献しています。

スポーツひのまるキッズ小学生柔道大会

スポーツひのまるキッズ小学生柔道大会は、小学生とその親と一緒に参加することで親子の絆を強めるイベントで、被災地復興支援活動として毎回東北地域の親子が招待されています。2014年は全国8地域で開催され、セイコーは、関東大会にタイマー1セットを貸与、全大会に賞品としてタイマークロック80個を無償で提供しました。



スポーツひのまるキッズ小学生柔道大会

水泳の日

スポーツによる社会貢献活動の一環として、水に親しみきっかけづくりを目的に制定された「水泳の日」。2015年、セイコーは東京辰巳国際水泳場で開催されたスタートイベントに協賛し、水泳競技の結果をウェブサイト

アップするとともに、銀座の和光 時計塔やセイコーミュージアムなどを訪問するバスツアーに被災地の子どもたちとコーチを招待しました。



「水泳の日」イベントバスツアー(セイコーミュージアム)

音楽を通じた取り組み

「わ」で奏でる東日本応援コンサート

被災地の方々に音楽で元気づけることを目的に、2011年から継続的に行っている東日本応援コンサート。2014年度は、7～9月に合計2,600人以上の人たちを招いて東北5か所で開催し、2015年3月11日には東京・日比谷公会堂に1,800人を集め、「わ」で奏でる東日本応援コンサート2015 in 東京を開催しました。作編曲家・ジャズピアニストの前田憲男さんを中心に、実力派のシンガーの方々に出演していただきました。



「わ」で奏でる東日本応援コンサート2014 in 石巻

老人ホームコンサート

日頃コンサートに行く機会の少ないシニア世代の方々に、ワクワク・ドキドキするような楽しいひとときを過ごしていただきたい、との思いから、2014年9月より老人ホームでのコンサートを行っています。出演はワイルドワンズの鳥塚しげきさんと服部グループCEO。毎年、春・夏の各2回(年4回)の開催を予定しています。



老人ホームコンサート

目ざまし時計組み立て体験教室



「学び」の機会と場を提供する活動

目ざまし時計組み立て体験教室

セイコークロック(株)は、(一社)日本時計協会が主催、後援する「目ざまし時計組み立て体験教室」に、会員企業として協力・参加し、組み立てる時計の提供と講師などスタッフの派遣を行っています。2014年度は6月開催の東京おもちゃショー内での教室をはじめ3回実施し、子どもたちに文字板に自由に絵や文字を描いてもらい、世界でひとつだけのオリジナルクロックを組み立ててもらいました。

「時」と「時計」を学ぶ、セイコーミュージアム

セイコーミュージアムは、1981年の設立以来、日時計に始まる時計の歴史、日本の時計産業の歴史を紹介するとともに、セイコー創業時からのクロック・ウォッチを展示し、多くの方にご来館いただいています。

2015年は、6月10日の時の記念日に合わせてウェブサイト进行全面リニューアルしました。地方や海外など遠方の方でも、ウェブを通してミュージアムを疑似体験していただけるバーチャルツアー、クイズ・ゲーム・工作など遊びながら学べるキッズサイト、時計とセイコーの歴史、創業者エピソードなど盛りだくさんな内容で、より多くの方々に「時と時間」に関心をもっていただけるよう努めています。

URL <http://museum.seiko.co.jp>



URL <http://museum.seiko.co.jp/kids/>

環境保全の課題解決に向けて

セイコーホールディングスグループは、地球環境を守ることが人類共通の最重要課題であることを認識し、良き企業市民として環境の保全に配慮して行動しています。

環境理念

(改定：2013年6月/制定：1998年4月)

セイコーは、地球環境を守ることが人類共通の最重要課題であることを認識し、良き企業市民として環境の保全に配慮して行動します。

環境推進体制

セイコーホールディングスグループ各社の環境担当者が一堂に会し、方針を決める場が「環境連絡会」です。環境連絡会の「製造分科会」では、急速に変わっていく国内外の法規制やガイドラインなどに関する情報共有を主な目的として、定期的に連絡・報告を行っています。さらに、定期的に外部講師を招聘して、社員を対象に「環境セミナー」を開催するとともに、イントラネットの「環境トピックス」では、年間の目標とレビュー、環境をめぐる話題などを取り上げています。

環境会計

セイコーホールディングスグループでは、環境保全活動のコストと効果を集計しています。2014年度の環境保全コストは、設備投資額が867.7百万円、費用額が1,907.6百万円でした。その結果、CO₂排出量削減3,022.6トン、新規材料購入抑制量426トンといった量的な効果のほか、経済効果として623.2百万円の費用削減を達成できました。

環境に配慮した商品

セイコーホールディングスグループ各社は、環境に配慮した数多くの商品を市場に送り出しています。また、お客さまの製品の環境性能を向上できる製品、そして環境の改善に積極的に貢献する製品やサービスの創出に注力しています。

セイコーウォッチ(株)では、機械式時計や電池交換の不要な自動巻発電式時計、ソーラー発電式時計といった環境負荷の少ないウォッチの売上高に占める割合が7割超にいたっています。また、世界初のGPSソーラーウォッチ

「セイコー アストロン」は究極のエコウォッチでもあります。セイコーインスツル(株)は、「自社の製品が組み込まれることでお客さまの製品の環境性能を向上できる」「人びとが生活する環境の保全に貢献できる」という考え方をグリーン商品基準の評価項目に取り入れて運用しています。

セイコーソリューションズ(株)は、東京大学のグリーンICTプロジェクトに参画し、IEEE1888*に準拠した次世代通信システムとして、エネルギー制御・監視ソリューション「GreenTALK(グリーントーク)」をタイ・チュラロンコン大学に納入。全体的な空調制御を視野に入れたシステムとして、環境に配慮したエネルギー運用を実現しています。

セイコータイムシステム(株)は、デジタルサイネージと太陽光発電設備等を連動させたエコ表示やオフィスのフロア別電力使用量表示など、エネルギーの「見える化」により、環境への取り組みや節電・節水等の意識を高めるのに役立っています。

*IEEE(米国電気電子学会)が2011年に策定した国際的な通信規格のひとつ。

SIIグリーン商品の例

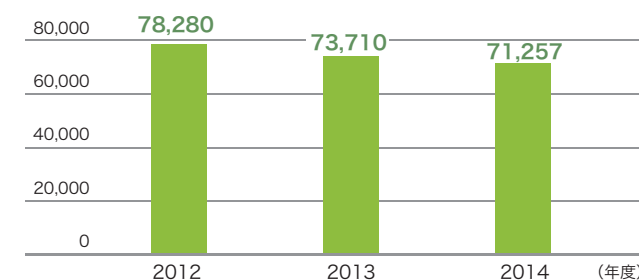


CO₂排出削減に寄与する社員による植林活動「セイコーインスツルの森」

地球温暖化防止

セイコーホールディングスグループは、環境会計の導入やCO₂排出量の公表など環境の見える化の推進により、商品の開発・製造・販売・サービスなどさまざまなプロセスにおいて、地球温暖化ガスの低減に取り組んでいます。

CO₂排出量 (トン)



循環型社会への貢献

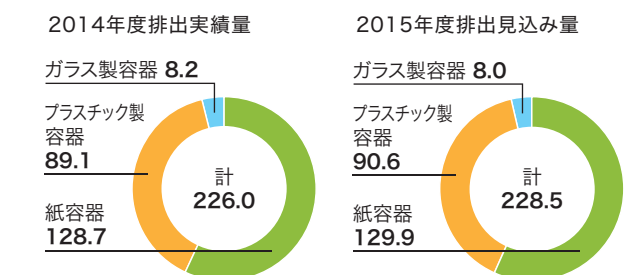
セイコーホールディングスグループ各社は、製造事業所内での活動はもとより、商品・包装材のリサイクルや省資源化に取り組む、限りある資源を大切にしています。

セイコーサービスセンター(株)では、ボタン型電池を販売店から回収し、専門業者に分解させ、再資源化しています。

セイコーインスツル(株)など事業会社3社は、小形充電式電池のリサイクル推進に取り組んでいます。

(株)和光、セイコーウォッチ(株)をはじめ、全事業会社は、梱包材料の減量化、分別・リサイクルを促進する商品表示に取り組むほか、排出量に応じ再資源化費用を負担しています。

容器包装排出量 (トン)



環境会計

環境保全コスト

集計範囲: セイコーウォッチ(株)、セイコーインスツル(株)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコーソリューションズ(株)、セイコークロック(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)、セイコーオプティカルプロダクツ(株)、セイコーホールディングス(株) (事業会社9社、持株会社1社)
対象期間: 2014年4月1日~2015年3月31日

(単位: 百万円)

分類	内容	投資額 ^{※1} 2014年度	費用額 ^{※2} 2014年度
1.事業エリア内コスト(内訳)			
①公害防止コスト	水質・大気・騒音など公害防止に関するコスト	833.1 (662.5)	1,424.9 (447.1)
②地球温暖化防止コスト	地球温暖化防止、オゾン層保護などに関するコスト	(170.6)	(544.9)
③資源循環コスト	省資源、廃棄物の削減・リサイクル、購入抑制など	(0.0)	(432.9)
2.上流下流コスト	環境配慮型製品の製造、製品・容器包装等のリサイクルなど	0.6	55.9
3.管理活動コスト	環境教育、環境情報の開示、環境マネジメントシステムの運用など	34.0	303.1
4.研究開発コスト	環境に関する研究開発など	0.0	117.0
5.社会活動コスト	環境保護団体、地域への支援など	0.0	6.8
6.環境損傷対応コスト	土壌汚染修復費など	0.0	0.0
合計		867.7	1,907.6

※1 投資額は2014年度単年のみの投資額です。全額を環境保全コストと判断できない場合は按分集計を行っています。
※2 費用額には2013年以前の減価償却費を含んでいます。(投資額を設備は5年、施設は10年で均等に分割して算出) 全額を環境保全コストと判断できない場合は按分集計を行っています。

環境保全効果

環境負荷	削減量(前年比)
CO ₂	3,022.6トン
用水	35.6千㎡
紙資源	-2.3トン
産業廃棄物	-290.9トン
一般廃棄物	-22.6トン
新規材料購入抑制量(単年度効果)	426.0トン

環境活動に伴う経済効果 (単位: 百万円)

実質効果の内容	実質効果(前年比)
省エネルギーによる費用の削減	-120.1
省資源による費用の削減(水)	-3.6
省資源による費用の削減(紙)	-0.6
廃棄物処理費用の削減	-10.9
有価物など売却による収入(単年度効果)	183.5
新規材料購入抑制金額(単年度効果)	346.8
合計	395.1
環境リスク回避効果試算(単年度効果)	
大気、水質汚染などによる操業停止回避	176.2
不法投棄などによる罰則の回避・その他	51.9
合計	228.1
経済効果総合計	623.2

盛岡セイコー工業(株)

「いきもの共生事業所」第一号工場に認定

岩手県栗石町で機械式腕時計の一貫生産を行う盛岡セイコー工業(株)は、「山々と、水と緑と出湯の里『栗石』にふさわしい会社になる」ことを目標に環境活動に取り組んでいます。2015年2月には(一社)いきもの共生事業推進協議会が運営する「いきもの共生事業所[®]認証制度」における認証を取得。同制度の工場版認証としては第一号認証となります。



SEIKO

セイコーウォッチ株式会社
セイコーインスツル株式会社
セイコープレジジョン株式会社
セイコーNPC株式会社
セイコーソリューションズ株式会社
セイコークロック株式会社
株式会社 和光
セイコータイムシステム株式会社
セイコーオプティカルプロダクツ株式会社
セイコーホールディングス株式会社

[発行元およびお問い合わせ先]

セイコーホールディングス(株) ブランド推進一部
〒105-8505 東京都港区虎ノ門2丁目8-10
Tel: 03-6739-3111(代表)
<http://www.seiko.co.jp/>
E-mail: prdeptj@seiko.co.jp

[発行] 2015年9月



この印刷物は責任ある管理された森林からの木材を含むFSC®認証紙を使用しております。